

2009年8月31日

NPO 法人地域資料デジタル化研究会

(報告者：中澤京子)

デジ研アーカイブ班が取り組むプロジェクトの現状

～「みんなの山梨」を中心に～



NPO 法人地域資料デジタル化研究会のデジタル・アーカイブ「甲斐之庫」には、写真、文章、ビデオ、デジタル紙芝居が収められています。

写真を公開する場合は長野大学の前川道博先生が中心となって運営しているPushCorn、PopCornというwebアプリケーションを利用しています。

詳細：<http://www.mmdb.net/pushcorn/index.html>

PushCornでサイトの編集をし、PopCornがWebサイトを自動生成してくれます。写真を掲載するのにサムネイル大、ウィンドウ大、オリジナルの大きさにそれぞれ作らなくても自動で生成してくれるので助かっています。

デジ研のアーカイブ：<http://www.digi-ken.org/~archive/index.html>

emedia 研究会会員になって利用すると、年間利用料 8000 円で使い放題（アップする量に制限なし）です。

flickr や YouTube などを使って行くのはどうかという意見もあります。

今までのデジタル・アーカイブの流れを見ると、特殊なアプリケーションを使ったり、何かのイベントの際に立ち上げられた予算付きのアーカイブは、アプリケーションのアップグレードが終わった時、予算がなくなった時に終了してしまうことが散見されます。コンピューターの進歩によって、逆に過去に制作されたアーカイブが見られなくなるということもあります。継続的な運用が補償されるシステムが望まれます。

特にアーカイブ班が制作に全力をあげて取り組んでいるアーカイブを紹介します。デジ研では、写真は「県民の手による歴史アルバム」として、昭和時代の写真、現在の写真を公開しています。

「みんなの山梨」プロジェクトの概要

- 昭和時代の山梨県内の県民の暮らし、自然の風景を写真で残すボランティアの活動の遺志を継承し、デジタルで後世に残すためにがんばっている。
 - 記録者
 - 甲府・中山梅三氏
 - デジ研が収集した写真資料は約2000点
 - 甲府・内田宏氏
 - デジ研が収集した写真資料は、約4000点
家族からデジ研に託された写真活用の思いを社会に伝えたい。
 - 収集した資料のデジタル化とアーカイブ構築
 - デジタル化技術・メタデータ整理の方法
 - アーカイブ技術 pushcorn, popcorn 長野大学前川教授が提唱する共有アーカイブ フリッカー（世界的な写真共有システム）
 - 収集した資料のデジタル化とアーカイブ構築
 - デジタル化技術・メタデータ整理の方法

「笹子追分人形」プロジェクトの概要

- 笹子追分人形は、山梨県指定無形民俗文化財。笹子追分人形保存会（山梨県大月市、天野茂仁会長）の要請により、2006年3月より毎年の文化財保存公演をハイビジョンで完全映像記録するアーカイブ事業に協力している。
 - 撮影チーム
 - 映像制作会社を運営するデジ研会員を中心にアーカイブ班がボランティアで協力。
 - 記録演目
 - 2006年 生写朝顔日記－宿屋の段、大井川の段－
 - 2007年 奥州安達ヶ原 袖萩祭文の段
 - 2008年 本朝二四考 十種香の段 狐火の段
 - 2009年 壺坂霊験記 沢市内から山の段
 - 記録方法
 - ハイビジョンカメラ3台により、マルチアングル撮影（技法伝承のため）

- 保存会会員の研修資料として、DVD を毎年提供している。

【よみがえる戦後山梨の記憶】



敗戦から高度経済成長期へと激動の時代のなかで、カメラを通して、山梨県の農村の生活を撮り続けてきた郷土写真作家・内田宏氏の写真が山梨県立博物館に寄託されることになり、博物館に収められる前に当会でデジタル化の作業を行い、公開しています。

内田氏は山梨県職員として農業改良普及事業に携わっておられ、農業普及の記録と広報のために写真を撮り始めたそうです。仕事のかたわら農家の生活や風俗、様々な農業改善活動など、貴重な昭和農村の記録を残されました。特筆すべき点は、すべての

写真に撮影年と月、場所が記録されていることです。歴史的な資料としての価値を高めています。作成したデジタル資料は今後共同で活用するために山梨県立博物館に納品しました。

目次

- ・「内田氏の写真アルバム」趣旨説明 内田氏のプロフィール、写真記録、制作活動の紹介
- ・農村女性
- ・村の人
- ・稲・麦
- ・野菜
- ・農村災害・林業・農村風景
- ・畜産・養蚕・農産加工
- ・果樹

【みんなの山梨アルバム】



故中山梅三氏の奥様から『貴重なネガ』と書いてある箱・数箱を頂きました。スキャンして現れた画像をもとに昭和30年～40年代の山梨の様子を公開しています。

ネガとネガ袋に書かれたわずかなメモ書きしか残されていないので、当会で被写体について調べ、解

説を加えています。写真の内容を理解し役に立つ資料とするため、県民の皆様からもお話を伺い、内容豊かなアルバムにして行きたいと思います。

2007年、県立博物館企画展「人と動物の昭和誌」でも展示（展示する写真の選考とネガの貸出で協力）、企画展でも多くの情報が寄せられました。

目次

- ・未分類 デジ研の活動、「みんなの山梨アルバム」等の説明
- ・生活 被災前の根場（現在の富士河口湖町）の暮らし、芦安の冬、保育園、遊ぶ子ども、鰍沢町の入町暮らし、山交バス、台風災害後の富士川渡し船、山中湖のスケート遊びほか
- ・産業 山梨中央銀行の大争議、メーデー、若草十日市、甲府駅前広場夜景ほか
- ・自然 「韮崎所見」、車窓から見た韮崎の風景・七里岩・穴観音祭ほか
- ・災害 昭和34年台風7号で被災した釜無川流域
- ・催事 昭和天皇行幸、新笹子隧道開通、八ヶ岳カンティフェア、33年総選挙、世界動物博覧会、吉田の火祭り他
- ・撮影者中山梅三氏略歴

＊＊一口メモ＊＊

企画展オープニング・セレモニーにおける中山夫人の言葉

館長が挨拶の途中で奥様を前に誘って招待者一同に紹介。その時の奥様の晴れがましい、でも、恥ずかしそうな顔！

「今日はとても良い日でしたね。前に出られて皆さんにお礼を述べられた様子を私はとても嬉しく拝見しました。」とデジ研会員が伝えたところ、奥様は目頭を赤くして、「あなたのお陰です。あの時、あなたと出会わなければ、私は中山が撮り続けた写真を処分してしまっていました。それは、私の人生をも捨ててしまうことと同じです。今日のような幸せな日が来るとは思っていませんでした。今晚はお風呂から上がったら、ビールをいただきます。」と仰いました。

貴重な地域資料を保存し、たくさんの人に見て頂くことがデジタル・アーカイブの目的ではありますが、作者や御家族の方が作品を公開されることを喜んで下さることは、何より励みになることです。

デジタル・アーカイブには1人の人を1日幸せにできる力があります。

「よみがえる戦後山梨の記憶」も「みんなの山梨アルバム」も、肖像権については問題が残ります。部分的には許可も得ていますが、当会の活動が非営利であること、公開することによる利益が公開しないことによる不利益より勝るという考えから、公開に踏み切っています。

【路傍の神 道祖神アルバム】



道祖神は全国的に集落の辻や路傍に分布しますが、山梨県内では丸石道祖神という特色ある神様のかたちが見られます。

<分類フォルダ>

- ・ 山梨の道祖神アルバム
 - 道祖神のかたち
 - 「山梨の道祖神祭」(山梨県立博物館開館記念企画展より)
 - 甲斐路の道祖神百選 (備仲コレクション)
- ・ どんど焼きは国民的行事
 - 小正月行事の全国調査報告書

一口メモ

小正月行事の全国調査報告書は日経新聞・ネットナビからリンクが張られています。

【甲府城・甲府駅周辺 年の瀬風景アルバム】



甲府の冬のまちを彩るアート・イルミネーションの数々を写真でレポート。甲府城をイルミネーションで飾る「光のピュシス」は1～3回まで。

【富士河口湖町光の幻想】

富士河口湖町では、秋から冬にかけての河口湖を楽しむイベントとして、夜間照明・ライトアップにより観光地を幻想的に演出するキャンペーンを展開しています。地域の貴重な映像として「紅葉まつり」、「河口湖光のファンタジア」「河口湖水まつり」の会場の模様をフォトライブラリーとして記録しました。

【山梨県笛吹川の聖牛】



川にすむ聖牛とは、武田信玄が考案したと言われる伝統的水防工法を写真レポートしました。

【甲府城山手御門復元の記録アルバム】



明治期に破却された甲府城山手門が1世紀以上の歳月を超えて、甲府市歴史公園として当時のままに復元されました。工事は平成17年6月にスタート。完成までの様子を写真でレポートしました。

- 甲府市歴史公園建設事業概要
- 山手門建設現場の様子
- 完成した歴史公園
- 公園に復元された戦国烽火台

- 山手御門で開催された甲府大好き祭り

【山梨県大月市の伝統芸能アルバム】

大月市はかつて甲州街道の宿場町として繁栄し、多くの史跡や伝統芸能が現代に受け継がれています。後述の映像資料とも関係しています。

【日本三大奇橋 大月の猿橋】

山梨県大月市には、橋脚のない独特の構造を持った猿橋があり、名勝に指定されています。

【郷土の英雄 安田義定公】

山梨県山梨市には、源頼朝を助け、鎌倉幕府創立の原動力となった勇将の墓所があり、山梨県有形文化財に指定されています。

【北海道開拓スピリットと甲府中学校長大島正健】

「少年よ大志を抱け」。札幌の地に残された名言と「クラーク精神教育」は直弟子・大島正健によって、山梨県の甲府中学で大きく開花しました。その教え子から宰相石橋湛山が生まれました。甲府はクラーク精神教育を体系化した記憶の街となったのです。

【2008年甲府商店街七夕飾りコンクール作品アルバム】

甲府商店街の夏祭り恒例となっている商店街七夕飾り（甲府商工会議所開催）では、オリンピックにちなんだ作品などが買い物客の目を楽しませています。

次に文章の資料を紹介します。甲斐之庫では、＜郷土資料＞＜文学資料＞としてあります。

【郷土風景 -創作版画 と其の作り方】

ゴミ置き場に棄てられていた古本をふと手にしたことから、郷土資料のデジタルアーカイブが誕生しました。

昭和8年9月20日出版。



山梨師範学校の教師であった矢崎好幸先生と生徒の方々が郷土山梨の風景を版画にし、その版画に寄せて説明文を書いています。当時の山梨の政治、産業、風物、生活、教育、宗教、史跡名勝、景勝地について一通りの知識を得ることが出来ます。

肖像権と併せて、著作権のクリアは大きなハードルです。平成14年にこのアーカイブを公開しましたが、その時の様子を書きます。

著作権の原則的保護期間は、著作者が著作物を創作した時点から著作者の死後50年までです。インターネットで検索したところ、境川に矢崎先生発明の卵殻モザイクの継承者・桑原浜子さんがいらっしゃることを知り、矢崎先生の御家族の方を御紹介頂き、手紙で公開の許可をお願いしました。また、生徒さん達40人については、デジ研の会員で司書の方から師範学校の同窓会名簿の徴典會を調べるのがよいとアドバイスを頂き、手紙を書きました。宛先不明で戻って来てしまった手紙も少なからずあったとはいえ、御連絡を頂いたのは3人のみでした。無理もありません。70年近く前の話ですし、戦争もありました。作者の皆さんには亡くなられている方も多く、御家族の皆さんは本の存在すら御存知ない方が多かったです。しかも、当時は師範学校で学ぶような優秀な方で次男三男に生まれた方は養子として迎えられ名字が変わってしまうことも多かったです。でも、そんなことでは諦め切れません。今度は、ぶしつけとも思いましたが電話でお願いしたりお宅に伺ったりして、デジタル化研究会の活動やインターネットの効果について説明しました。直にお話すると、今またこの本に光が当たることを喜んで下さり、昔話に花が咲くこともありました。ある作者の奥様は、「主人は運動ばかりが得意だった人でこんな版画を作ったことがあるとは知りませんでした」と、亡くなった御主人の一面を知って驚いておられました。またある方はずっと水彩画を描いていらして、フランスの展覧会で入選され県立美術館にも絵が所蔵されていますが、年賀状はいつも版画を彫っていたそうです。

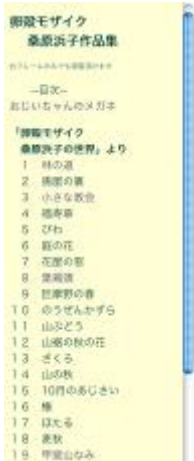
作者の方の連絡先がわからない時は、勤め先だった学校に電話をしたり、電話帳を使って同じ村や町の同姓の方に次々と電話をしたりしました。突然の電話にもかかわらず、皆さんとても親切にして下さって、あるお宅では若い世代の方々は御存知なかったのですが、おじいちゃんが電話口に出られたら、「おお、それは本家の息子さんじゃ。東京の住所を教えましょう。」と連絡先を教えて下さったのでした。このように見ず知らずの多くの皆さんのお陰で、家が絶えてしまっているという方と、戦争直後の同窓会名簿から連絡先の書かれていない方を除いて38人分の作品の公開が可能になりました。

社団法人著作権情報センターの著作権相談室に相談したところ、「三十幾人かの共働労作の集積」と本文中にも書いてはあるが、編集兼著作者として矢崎好幸先生の名前がうたってあること、著作権者すべてを一生懸命捜したが見つからなかったという事実によって、裁定による著作物の利用が許可されるとのことでした。

【伊東けい子 染色作品集】

知られざる山梨の染織作家の作品集です。明快で動きのある構成で、色彩はあくまでも透明にして鮮やか、卓越した作品の数々は素直に感動できるものです。

【桑原浜子の世界 -卵殻モザイクを育てて-】

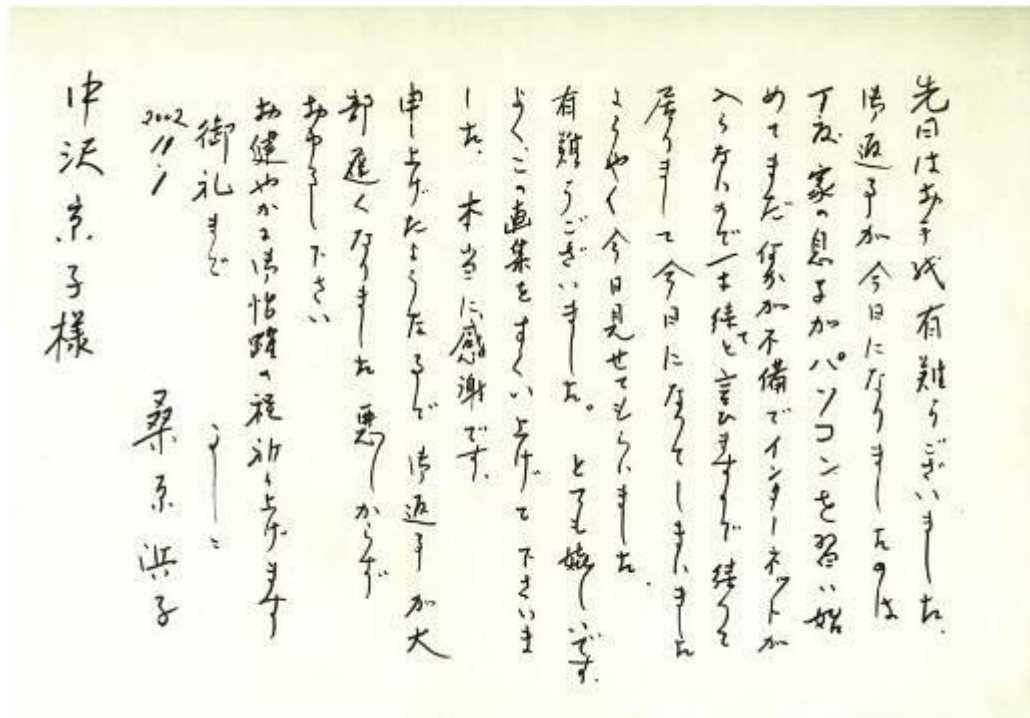


「卵殻モザイク」は漆工芸の変わり塗りの技法の1つ、「卵殻貼り」から生まれた芸術です。

昭和初期、山梨師範学校教諭・矢崎好幸先生が誰でも身の回りの材料を使って作れるように制作技術を発明しました。これを受け継ぎ、70年以上にわたり作り続け発展させたのが、山梨県笛吹市境川町在住の桑原浜子先生です。

先生と継承者であるお孫さんの作品を紹介しています。貴重な制作風景を動画で紹介しているのは必見です。

桑原浜子先生からの手紙



【日下部町誌】（制作途中）

【水底の翳（みなそこのかげ）】



著者のプロフィール

地域資料デジタル化研究会より

山梨の隠れた偉人に光を当てる論文。

2001年9月、山梨県教育委員会学校教育課長・私立駿台甲府高校長などを歴任された故八田政季先生が「水底の翳」として、矢崎美盛、中込忠三、中澤護人各氏の驚嘆すべき業績をまとめました。

A4判38ページの冊子がわずか80部印刷されましたが、もっと多くの人に読んで頂きたく、デジ研で公開させて頂きました。

八田先生の新聞記事と中澤笑子様の葉書



【榊都美夫詩集】

日本浪漫派につらなる鮮烈な詩魂。知られざる夭逝詩人の傑作を網羅。榊氏は昭和文学史のミッションリンクです。

【半田画伯西域紀行シルクロード独り旅】

甲府在住の気鋭日本画家の探訪記。写真レポート付き

次に映像記録です。

大月「幡野の大祭」、「追分人形人形保存会」の公演（実績：4公演）を動画、静止画で記録しています。ハイビジョン撮影も含まれます。

デジ研会員には映像のプロもいますので、教材として使えるような人形の細かい手足の動きなども記録も含め、多方向からの記録を行っています。

最後に電子紙芝居です。 都留市読み聞かせボランティア「こぶたの会」の朗読による
「富士のせいくらべ」
「富士の噴火」
があります。

以上、デジ研アーカイブについてまとめました。

これからは、上記の中で触れることが出来なかった御質問にお答えします。

Q. 作業風景

下記の「みんなの山梨アルバム」制作メンバー募集のちらしに様子が載っています。

「みんなの山梨アルバム」制作メンバー募集

NPO法人地域資料デジタル化研究会ではこのままにしておくことと失われてしまうかもしれない貴重な地域資料をデジタル化してインターネットで公開、皆の財産として大切に活用していこうという事業を行っています。



平成17年、写真家の故中山樹三氏の奥様から会員の中澤に中山氏が残されたネガフィルム等を多数譲渡頂きました。「『貴重なネガ』と書いてある箱が数箱あるので是非役立ててください」という奥様の御希望でした。

写真にしてみると資料として価値の高いものが多くあることがわかり、山梨の昭和を記す写真にコメントをつけてデジタル化して公開することに致しました。

ネガフィルムからデジタルデータを作る作業は会員が行っています。しかし、どれも私たちの住む山梨の写真なのに、既に撮影から半世紀以上が経過し、場所の特定が難しかったり、何についての写真かが判断できなかったりして、公開作業が難航しています。



PushComの登録画面



アルバムの画面

サイト制作には、長野大学の前川道博先生と研究グループの皆さんが開発された「PushCom・PopCom」という膨大なデータを簡単にインターネット上に保存し、公開することの出来るツールを利用しております。

当会に入会して共に作業して下さる方、写真についてご存知の方、ご連絡下さい。昭和の時代を生きた方々のご協力をお願いします。

皆様が「みんなの山梨アルバム」の作成に加わって下さることを心よりお待ちしております。

平成 18 年 11 月

連絡先：Mail info@digi-ken.org
Tel/Fax 055-261-7360



「みんなの山梨アルバム」のサイト：

<http://www.digi-ken.org/~archive/index.html>

Q. デジタルアーカイブを作る際のきっかけや、現在に至るまでのネットワーク作りや活動の経緯

何をデジタル化して公開するかは、それぞれの会員が日頃から心掛けて探しています。アーカイブにしたい資料が見つかったら、例会にて報告して作業に入ります。一人で作業する場合がありますが、大きなアーカイブになる場合は賛同者を募り共同作業を行います。

デジ研メンバーは皆それぞれに仕事を持ち、皆で同じ時間一箇所に集まって仕事をするのが難しいため、諸処の連絡はメーリング・リストを使い、共同作業をする時にはネット上のアプリケーション等を使って家庭でアップ作業が出来るようにしています。中心となっているアーカイブ班では、時間が許す限り1週間に1度程度ミーティングを開いて、報告相談研究を行います。

「県民の手による歴史アルバム」を目指していることもあり、一緒に活動する人を増やしたいとは思っていますが、実際に何か解決策を実行してはいません。

当会の外部とのネットワークとしては、関東ICT推進NPO連絡協議会、emedia研究会等に参加して、地域コンテンツの活用について研究しています。

活動の経緯はデジ研HP・甲斐之庫を御覧頂きたいと思います。

<http://www.digi-ken.org/~archive/index.html>

Q. デジタルアーカイブにおけるミッション

詳細：<http://www.digi-ken.org/vision.html>

Q. 今後、どのような取り組みを行いたいのか？

非常に沢山の写真を前にして、なかなか次の取り組みに進めない状態です。気分を変える為にも、写真以外のこともしたいと思います。

現在の問題点

日本ではお互いに助け合って生活するという風習があったためか、デジタル資料の利用に当たって使用料として対価を支払うということに慣れていません。写真を使わせて欲しいという問い合わせがあっても、利用料が用意されていることは少数です。勿論、教材として利用する場合は無償となっていますが、デジタル化するための機材をはじめ会員の持ち出しが頼り、常に経済的に不安定な状態です。

「もの」を買うことにはお金を払っても、サービスに対してはお金を払いたくない・・・この土壌を何とかしていかなければならないと思います。